



低コスト造林コンテナ苗生産現場を視察する一行



コンテナ苗生産者が生産しているコンテナ苗の育苗状況



コンテナ苗の成長比較

ら説明を受けま
苗の生産状況に
ついて生産者か
ら説明を受けま
苗生産箇所へ移
動し、コンテナ
苗の生産状況に
ついて生産者か
ら説明を受けま
き続きコンテナ
苗生産箇所へ移
動し、コンテナ
苗の生産状況に
ついて生産者か
ら説明を受けま
引
行いました。引
き続きコンテナ
苗生産箇所へ移
動し、コンテナ
苗の生産状況に
ついて生産者か
ら説明を受けま

(担当 技術普及課)

最後は島根県側から苗木生産
については生産規模の違いはあ
るものの一貫作業システムのメ
リット、課題などについては持
ち帰って行政に役立てていき
たい旨の話がありました。

2日目は、鹿児島森林管理署
管内の牧園森林事務所管内の誘
導伐箇所を視察し、現地で作業を
している事業者と懇談し活発な
意見交換を行いました。



コンテナ苗の発根状況

低コスト造林民間連携 島根県職員が視察

島根県職員3人が低コスト造
林の取り組み状況について当局
管内の国有林を2日間に渡り視
察されました。

これは、再造林コスト削減の

先進的な事例地を視察し、「循
環型林業」を推進している島根
県の林業施策に活用するために
要請があったものです。

1日目は、都城支署管内の西
小森事務所管内の現地にお
いて、昨年コンテナ苗を植栽し
た誘導伐箇所を視察し、伐採、
搬出、植栽の一
貫作業システム
におけるトータ
ルコストの削減
について説明を
行いました。引
き続きコンテナ
苗生産箇所へ移
動し、コンテナ
苗の生産状況に
ついて生産者か
ら説明を受けま

寄与する取り組
みと位置づけ、
関係する署と連
携し現地説明な
どについて対応
することとしま

霧島の名山



宮崎森林管理署都城支署

西小林森林事務所

地域統括森林官

郷原 寛実

宮崎森林管理署都城支署管内の北西には日本百名山に数えられる霧島山があります。

霧島山は天孫降臨の高千穂峰、2年半前に大噴火した新燃岳、ミヤマキリシマやノカイドウな

大自然の中の霧島山 「日本で最初の国立公園」

ど高山植物が美しいえびの高原など変化に富んだ山々が連なり四季折々のすばらしい景色で登山者や観光客の目を楽しませてくれます。

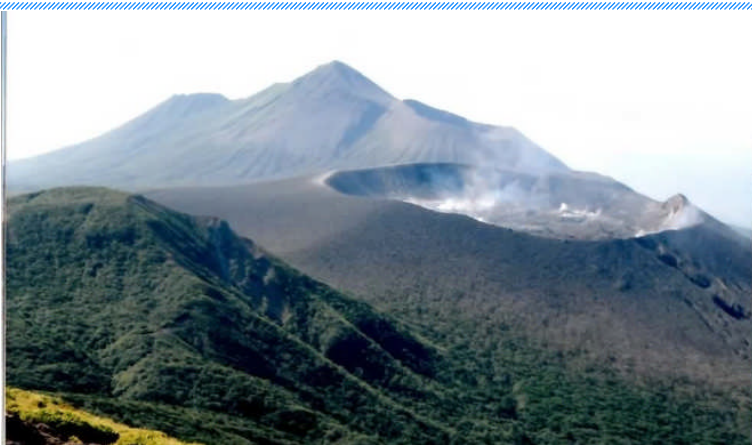
この霧島山は、昭和9年に日本ですべて初めて霧島国立公園として指定され、その後昭和39年に屋久島、桜島、指宿、佐多が追加

され霧島屋久国立公園になり、平成24年3月に屋久島が独立し霧島錦江湾国立公園に名称を変更しています。

この霧島山の現状としては、一つは、新燃岳の火山活動が続いていることです。

平成23年1月に52年ぶりに大噴火を起こし昨年まで半径3き以内の立ち入り制限が行われていました。そのため、高千穂峰や韓国岳の登山が禁止され、登山者や観光客が激減しました。現在は規制も半径2き以内と緩和され登山者なども戻りつつありますが、噴火活動の終息は至っていない状況です。

高千穂峰と新燃岳の眺望＝都城支署



高千穂峰とミヤマキリシマ＝都城支署

もう一つの問題は、シカによる食害です。

シカ被害は全

国的な問題になっていると聞きますが、霧島山でも、一般的な適正密度とされる100鈴当たり3〜5頭と比較すると、17倍以上の高密度に生息しているといわれています。そのため、スギ、ヒノキの人工林はもとより、絶滅危惧種に指定されているノカイドウなどの植物まで甚大な被害を受けています。このままではシカの嫌いな植物だけの植生になると心配している研究者もいます。

このシカ被害を軽減するため、職員による有害鳥獣捕獲やシカ防護柵設置による植生回復措置などの対策を進めています。

また、霧島山は、20箇所の火山、カルデラ、神話の里などの魅力を生かした日本★ジオパークに認定されており、今後世界ジオパークを目指しています。

このようにすばらしい名山の管理を私たちが管理させて頂いていることを誇りに思っています。

皆さんも、是非一度、霧島山の大自然を味わって頂きたいと思えます。★ジオパーク地球に関する様々な自然遺産、たとえば地層、岩石、地形、火山活動、地層などを含む自然豊かな公園

治山事業の地元説明会を開催

【熊本森林管理署】平成24年

7月に発生した九州北部豪雨に伴う猫岳国有林治山事業災害復旧事業の説明会を高森町において開き、高森町役場、地元区長ほか関係者約30人が参加。復旧計画をはじめ、治山事業の目的、復旧事例などを説明。参加者から「地元車優先、牛馬優先で安全な通行をお願いし、早期の復旧に努めていただきたい」との要望があり、工事車両通行などに理解をいただきました。今後も現地の荒廃状況などを見極め、治山事業を効果的に展開し、住民の安全・安心を確保していきます。



森林管理署からの説明を聞く参加者II熊本

綾の照葉樹林プロジェクト

第18回連携会議を開催

6月26日に宮崎県綾町役場において、「綾の照葉樹林プロジェクト（略称「綾プロ」）」の第18回連携会議が、九州森林管理局、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会（略称「てるはの森の会」）の関係機関5者が出席し開かれました。

会議の冒頭、中山浩次計画保

全部長より「4月から国有林は新たに一般会計となりましたが、公益的機能重視の管理経営の一層の推進と民有林支援などを通じて森林・林業の再生へ貢献して参ります。綾のプロジェクトについても、今後とも関係機関と連携を図りつつ積極的に取り組んで参りたい」との挨拶がありました。

（案）が報告・提起され、満場一致で確認・承認されました。また、事務局から平成25年4月1日付けで各関係機関5者で「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画協定書」の再締結（期限平成25年4月1日～平成35年3月31日）が行われたことが報告され、連携会議を閉会しました。

会議は、各関係機関5者から平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画



会議の冒頭挨拶をする中山計画保全部長

ホタルと竹の町から日本の豊かな自然を考える

さつま町は、鹿児島県北西部、北薩地域の中心部に位置し、町の北部にそびえる標高1067mの紫尾山から分岐する山々に囲まれた緑豊かな町であります。また、南九州一の大河である川内川が町中心を貫流し、森林、



鹿児島県さつま町

町長 日高 政勝

野面積の3割を

野面積の3割を



この自然を生かした取り組みの一つ、毎年5

この自然を生かした取り組みの一つ、毎年5

この自然を生かした取り組みの一つ、毎年5

この自然を生かした取り組みの一つ、毎年5

森林教室で紙芝居をつくって

【宮崎南部森林管理署】日南市飯肥の日南幼稚園からの依頼で、当署職員が幼稚園に出向き、園児約70人を対象に森林教室を行いました。当幼稚園では、木や緑と触れ合ったり自然の大切さを教えるなど、環境教育に力をいれており、当署からも例年森林教室を行っています。森林教室では、地元の山に生息する動物や鳥、昆虫などの名前当てクイズや紙芝居を行いながら森林の大切さを教えるとともに、ヒノキの枝を使用したキーホルダー「もっくん」作りをしました。最後に、園児たちから元気なお礼のことがありました。



園児らに紙芝居をする職員 川宮崎南部

森林教室であじさいの挿し木

【宮崎南部森林管理署】宮崎県日南市立酒谷小学校的依頼で、3年生から6年生までの★緑の少年団22人の児童らと一緒にアジサイの挿し木などを行いました。同校では、地域と一体となつてアジサイの植栽活動を行っており、国道沿いやキャンプ場などに植栽する苗を育てています。児童らは講師の話に熱心に耳を傾け、今年も約150本の穂木の挿し木を行い、昨年の苗木をポットに移植し無事に挿し木は終了。何本成長するのか、児童



奥 美智子さん



国有林、民有林の区別もつかないような私ですが、モニターの応募させて頂きました。私の住む大分県竹田市は高齢化率4割に達する地域で、昨年の九州北部豪雨災害の後、個人

らよりも職員の方が心配のようでした。

★緑の少年団II時代を担う少年少女



挿し木の要領を熱心に聞く児童＝宮崎南部

の山の木が伐られていくのを目にします。おそろはけ山になったところには植樹されないとされています。

私は亡父から少しばかりの山を相続しましたが毎年、台風の後には自宅のことより山の倒木が心配でした。近くに電線や電話線があり、それらを切断すると大変なことになると思うと気が休まりませんでした。

父の死後、隣接する山の持ち主も災害を恐れて木を処分すると言うので私方の木も一緒にお願いしました。父が生きていたらとても処分は出来ませんでした。

緑の森を見続けた

公園にされました。その山は牧地区にあった牧の城ののろし台跡地です。木に価値があっても運び出す道が狭く、重機が入らない場所でした。海拔445mの頂上からは傾山、祖母、阿蘇、荻岳、久住山、三侯、遠くに由

ワラビが育ち、私やご近所さんの胃袋を満たしました。山の持ち主の夫人が「老後は山の木を売って豊かな暮らしを夢見たのに」とおっしゃった言葉が頭を離れません。山の下草刈りや間伐に注いだものが、成果として

今年も沢山の苗木を買います。求め植樹されています。山深いこの地の木の切り出しには道路が必要です。国有林の整備のための道路を民有林所有者に使わせて貰って伐採後の植樹など、地球温暖化防止のために活用出来るよう願ってやみません。緑の山や森を何時までも見続けたいと願っています。(大分県竹田市在住)

が緑を通じて広く自然とのかかわりを持ち、自然の学習とあわせ、自然を守り、公聴心を高めながら奉仕活動を楽しく実践し、健全な心身の養成に努めることを目的とした集団、6歳から18歳の青少年で構成されている。

【熊本南部森林管理署】芦北町立湯浦小学校の体育館において、当署職員による「森林教室」を開きました。当日は、湯浦小学校1年生児童及び保護者など約50人を対象に、「紙芝居」や「もっくん・しおり作り」など



種の模型飛ばしをする児童ら＝熊本南部

を行いしました。その後、「鳥の声が聞こえる野鳥図鑑」や種の模型を使った「種飛ばし」も行った。色々な野鳥の声に目を輝かせながら聞き入ったり、自分で作った種の模型を飛ばし、館内を駆け回る子供たちの大きな歓声が響いていました。

7月1日付森林管理局長発令
企画調整課企画調整係長
木村嘉彦(大隅署)
大隅署主任事務管理官
徳満千秋(四国局)
農林水産省出向
氏橋晃介(企画調整課企画調整係長)



平成25年度

林野庁職員定期表彰式を開催

勤続30年4人・20年9人を農林水産大臣表彰

6月27日局大会議室において平成25年度林野庁職員定期表彰式が開かれ、勤続30年4人・勤続20年9人に農林水産大臣表彰状の伝達式を行いました。式典は、永年勤続30年受賞者及び局幹部出席のもと執り行われました。



式辞を述べる川端局長

はじめに、川端省三局長が「皆さまのこれまでの努力と苦勞に敬意と感謝の意を表し、心からお祝い申し上げます。今後も、健康に留意し、それぞれの部署の中枢として、これまでの経験

と知識をさらに発揮され、一層活躍頂くよう期待する」と式辞を述べたあと、佐賀森林管理署の黒木興太郎事務官に農林水産大臣表彰状を伝達しました。その後、林野庁長官の祝辞を竹花祐治総務企画部長が代読。続いて全国林野関連労働組合中央執行委員長からのメッセージを披露。



大官産水農林農らから局長を川端局長に代表して表彰状を授けらるる

最後に、企画調整課の森本明技官が「この栄誉と本日の感激を糧に国民の財産である豊かな森林を未来に引き継ぐため、更に全力を傾けて行くことを誓う」と受賞者を代表して謝辞を述べ、式典を終わりました。

農林水産大臣賞（勤続30年）

上田浩史（次長（業務管理官））

- 樋口 浩（計画保全部）
- 森本 明（企画調整課）
- 下村龍也（経理課）
- 下田勝也（計画課）
- 宮崎太守（計画課）
- 木下栄治（計画課）
- 廣田忠善（保全課）
- 富永雄二（治山課）
- 山下裕之（治山課）
- 田上 誠（治山課）
- 真井 正（森林整備課）
- 高木周一（資源活用課）
- 黒木興太郎（佐賀署）
- 田中和利（佐賀署）
- 桑原英隆（熊本署）
- 後藤誠也（熊本署）
- 一口竜也（熊本南部署）
- 米本龍正（熊本南部署）
- 野口安男（熊本南部署）
- 猪島明久（大分西部署）
- 古閑義郎（大分西部署）
- 秋吉新二（大分西部署）
- 倉本雅則（宮崎北部署）
- 山邊隆広（宮崎北部署）
- 岩本浩三（宮崎北部署）
- 秋山郁男（西都児湯署）
- 井上 正（西都児湯署）
- 飯星 明（西都児湯署）
- 藤田康孝（宮崎署）
- 河野康治（宮崎署）
- 大岩根強（都城支署）
- 吉岡直人（都城支署）
- 藤田敬一郎（都城支署）
- 大石成人（都城支署）

農林水産大臣賞（勤続20年）

- 園田節朗（都城支署）
- 遠坂洋志（北薩署）
- 渡瀬博美（北薩署）
- 平沼孝太（鹿児島署）
- 飯星光吉（鹿児島署）
- 竹之内彰（大隅署）
- 奥村 克（屋久島署）
- 小屋敷祐二（屋久島署）
- 永田 豊（沖繩署）
- 川部美奈子（企画調整課）
- 野田祐治（福岡署）
- 大久保和人（福岡署）
- 林田 誠（長崎署）
- 今井 隆（熊本南部署）
- 後藤一哉（大分西部署）
- 渡邊 明（宮崎北部署）
- 岩下泰弘（宮崎南部署）
- 後藤貴裕（大隅署）



述べる技官を謝辞を代表して表彰状を授けらるる

無災継続に向け「安全大会」開催

【北薩森林管理署】国有林野事業安全週間の一環として、平成25年7月3日さつま町虎居地区公民館において職員50人が参加し北薩森林管理署安全大会を開きました。職員から募集した安全標語入選作の発表後、さつま警察署交通課による交通法令講習を受講しました。午後からは、安全教育ビデオと、次長が安全関係全般について説明を行い、大会宣言の後、参加者全員でタッチアンドコールを行い、今後も無災害を継続できるように気持ちを新たにしました。

（担当：川総務課）



全職員参加で安全大会開催＝北薩

ブナハバチ被害で 現地検討会・意見交換会を行う

6月13日に宮崎県五ヶ瀬町波瀬国有林2090林班及び五ヶ瀬ハイランドスキーセンターにおいて、九州森林管理局及び宮崎北部森林管理署合同開催による、ブナハバチ被害に関する現地検討会及び意見交換会が、森林総研九州支所、五ヶ瀬町、椎葉村、霧立越の歴史と自然を考える会、熊本森林管理署から17人が出席して開かれました。

現地検討会では、宮崎北部森林管理署が事前に調査した波瀬国有林2090林班内において、秋本治霧立越の歴史と自然を考

える会会長の案内で、後藤秀章森林総研主任研究員を中心にブナハバチ被害及びシカ被害の状況確認を行いました。

現地検討会後に行われた意見交換会では、被害の状況を踏まえて後藤森林総研主任研究員の見解と説明を受けた後①被害の原因と対策②シカ被害との関連性③国有林における保護林の施業などについて、意見や質問を交わし、今後も被害調査を継続すること、被害地内で下層植生を回復させる調査プロットを設置することなどの確認がなされました。

【担当・保全課、計画課】

森のセミナーを開く

【熊本南部森林管理署】当署会議室において約40人が参加し、本年度第一回目の「森のセミナー」を開催。環境省希少野生動物植物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に、標高からみた植物群落・植物群集の特性や球磨地方における希少野生植物について学びました。午後からは、事前に準備した植物約50種と参加者が持



被害の状況を確認する一行

ち込んだ植物の同定を行い、風習や方言にまつわる話などごやかな雰囲気の中で、植物を保護し、後生に残していくことの



乙益先生の説明を聞く参加者＝熊本南部

大切さに理解を深める一日となりました。

ボランティアで林道整備

【宮崎南部森林管理署】熊本

林業土木協会宮崎支部によるボランティア作業として、当署管内の林道4路線の林道整備を行いました。当日は、協会員や当署職員約50人が参加し、日頃出来ない横断溝などの土砂除去や不法投棄物の撤去、繁茂している草木の除草などを行いました。このボランティア作業で、各路線とも見違えるように整備され、これから迎える梅雨期の前に、林道の保全や交通事故防止に大



横断溝清掃に汗を流すボランティアの皆さん川宮崎南部

いに役立つものと期待しています。



この4月から、4回目の単身赴任生活である。今回は体調に気をつけ規則正しい生活を送りたいと思っ

朝の散歩でリフレッシュ

る。特に、朝は朝食を欠かさずきちんと取るようにしたいと思っ

た。朝の散歩は自然が身近に感じられ忘れていた昔の光景を思い出させてくれた。昔からよく「早起きは・・・」と言われているがまさにそのとおりだと感じた。朝の散歩で心も身体もリフレッシュ。勿論、当初の目的である朝食もおいしくいただいている。

宮崎北部森林管理署長

井上 誠

「交通法令講習」と「車両点検説明会」を開催

安全週間中の行事として、7月3日「交通法令講習会」と「車両点検説明会」を開きました。交通法令講習会は、橋本好弘熊本北警察署交通第一課長を講師に招き、局大会議室において職員約70人が参加しました。



交通法令講習会へ参加した職員

講師から、①交通事故のほとんどが交差点で発生している②交差点には優先順位がある③熊本県内では年間約1万件の人身事故と約5万件の物損事故が発生している④交通事故は定期的にマスコミに公表しており、名称は公表しないが公用車や社用



マニュアルに沿って点検をする参加者

車などの事故は報道される頻度が高い⑤熊本市内での事故防止はバスレーン、自転車、路面電車に注意、交通事故多発交差点に注意、など時折ユーモアを交えながらの講話に熱心に聞き入っていました。また、「誰でも事故を起こしかけて起こすものではないが、最近の車は機能がよくなり運転がし易いため、緊張感がなく運転を簡単に考えている人が多い。運転は歩くこととは違い大変危険が伴うもの、このため、運転する人すべてが『一歩家から出

て運転したら必ず無事で帰ってくる』強い意志を持ち安全運転に徹すれば交通事故は必ず減らせる」と熱心に語られました。これを機に、各職員においては交通事故ゼロを目標に「交通事故を絶対に起こさない」「交通三悪はもってのほか」との決意を新たにしたいと思います。午後からは局構内車庫で、職員約30人が参加し「車両整備明会」を開きました。車両整備契約相手の整備工場から講師を招き、①乗車前のタイヤの空気圧や亀裂などの状況やオイル漏れなどの点検②ボンネットを開けてエンジンルーム内を点検③運転席に座ってブレーキペダル点検など普段何気なく行っている点検のポイントについて、専門家ならではの説明を聞き、参加者は納得顔で聞き入っていました。今後においても、点検を確実に正しい安全な運転に繋げていきたいと思います。誰のためでもない自分自身のため、本日の講習会、説明会で学んだことを日々実践し『交通事故・交通違反撲滅』を目標に改めて気を引き締めた1日となりました。

(担当〓総務課)

国有林防災ボランティア研修を実施

熊本会場で23人・都城会場で33人の参加

国有林防災ボランティアの研修会が、梅雨時期や台風シーズンを前に、熊本会場で6月7日、23人、都城会場では6月11日、33人の参加を得て開かれました。国有林防災ボランティア制度

は、九州森林管理局長と認定非営利法人が協定を締結し、国有林野内での山地災害などの情報収集を地域の土木技術者などをボランティアとして活用することにより、災害の発生に迅速かつ円滑に対応することを目的とするものです。



局治山課山部課長の講話を聞く参加者＝熊本会場

(担当〓治山課)

研修は九州森林管理局治山課長などが講師となり、災害復旧制度、国有林防災ボランティア制度の概要やボランティアの実施に当たっての留意事項などについて説明があり、今年度も安全の上立ったボランティア活動の実施を確認しました。

「巾着式網はこわな」 農林水産大臣賞受賞

森林技術・支援センターチーム

森林技術・支援センターで取り組んできた「巾着式網はこわな」が平成25年度農林水産大臣表彰を受賞し、このほど伝達式がおこなわれました。

「巾着式網はこわな」は、従来の鋼鉄製箱罟の欠点である重くて設置場所が限定されることを補うため、コンパクトで軽量で持ち運びが簡単なうえ、捕獲効率の高い捕獲用具として開発され、各地でキャラパンを開催するなど、普及活動に努めていることが評価され受賞された



農林水産大臣表彰状を前に開発メンバーの皆さん

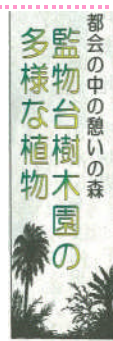
ものです。

今後も、キャラパンなどを通じてますますの普及を図ることとしていきます。

担当：森林技術・支援センター

平成25年度安全大会を開催

【大分西部森林管理署】7月1日から実施される安全週間の一環として、7月3日平成25年



サルナシは山間部に見られ、シマサルナシは海岸部に多く見られることから「シマ」がついたと思われ。シマサルナシには雄花、雌花、両性花と3つの花が咲きますが、雌花の花柱を理解するのに大変です。雌花を観察すると、花の中央に真っ白い糸状の付属物がわき出るようにしています。これは柱頭が放射状（糸状）に切れ込みが入ったもので、柱頭とはとも思えません。

茎をナイフで斜めに切ってみてください。濃い茶色の随が現れ、随は階段状になっています。

度大分西部森林管理署安全大会を開きました。全職員が殉職者に対し黙祷を行った後、安全標語優秀作品の表彰、日田警察署による交通安全講話を行いました。

一般会計移行後、初めての安全大会となることから、安全確保は最重要課題として安全活動の原動力に立ち、創意工夫によって災害の未然防止に努め、災害のない明るい職場づくりに努めることを誓いました。安全週間中には安全管理監督者などによる現場パトロール、安全点検、緊急連絡訓練を行いました。



マタタビと区別するときによく観察します。

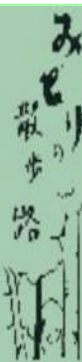
サルナシと比べると葉や茎に荒い毛が観察でき、葉も一回り大きいです。さらに果実があれば、長さ4cmとサルナシの倍くらいあり区別は簡単です。

果実は緑褐色から褐色の広楕円形で、キュイフルーツの小型のように見えます。

キュイフルーツは中国産のサルナシを品種改良して作られたもので似ています。樹木園の中央、東側に丸く刈り込んでありますが、このシマサルナシで花を観察したことはありません。



職場安全大会へ参加した皆さん 大分西部



このほど、九州の2地域が「世界農業遺産」に登録された。

次世代に継承すべき重要な農林水産業や、農業景観を有する地域として認定するもの。そのひとつが阿蘇地域▼久しぶりに裏山を歩いた。昨年7月の九州北部豪雨による自然災害の爪痕ともう一つ目立ったのがシカ被害だ。ヒノキやスギの剥皮被害にとどまらずアオキなど林床の植物もほとんど食べ尽くされ、シカの足跡だらけの異様な光景が林内に広がっていた▼20年前には被害は無かった。妻によると、5年前前から畑でシカを見かけるようになかったとの。食害が進めば阿蘇の稀少植物を含めた草原性動植物へ影響しかねない▼最近の新聞に「若者に狩猟ブルームの兆し」、「山ガールの次は狩猟ガール」、「ジビエが産業として軌道に乗り始めた」、「カレーチェーン店のシカ肉カレーが人気」など獣害対策に関する記事が目立つ▼捕獲した鳥獣の加工流通システムを阿蘇を含めた広域で構築することが、阿蘇を世界農業遺産として将来にわたって維持することにつながっていくかも(大)